

ちちぶたどり



2024年 第346号

◆令和六年度秩父学園の運営について	齋藤 晴美	2
◆令和六年度地域支援課体制について	齋藤 信哉	2
◆令和六年度地域療育支援室体制について	枡上 耕祐	3
◆令和六年度地域移行推進課体制について	伊藤 隆	3
◆令和六年度療育支援課体制について	齋藤奈津子	4
◆令和六年度第一回秩父学園自閉スペクトラム症 子育て支援セミナー開催のお知らせ		4
◆令和六年度職員配置		5
◆各寮の様子 春編	かりん寮 山本 文世	6
	けやき寮 津留 信久	6
	どんぐり寮 仲川正徳・松本昂紀	6
	くぬぎ寮 館内 圭子	7
◆令和五年度 事例報告会		7
◆職員の動き・入所児童の動き		8
◆行事予定		9
◆熊澤先生のゆる～くかた～く 「人を変える？自分が変わる！」熊澤 海道		9

令和六年度 秩父学園の運営について

次長 齋藤 晴美

令和五年度は、十四名の児童が、長年慣れ親しんだ秩父学園を退園し、グループホーム等に地域生活移行されたことから、令和六年度は、小学生三名、中学生七名、高校生以上の児童二十六名の計三十六名(令和六年四月一日現在)の入所児童でスタートしました。

本年度も高校生以上の児童が多いことから、関係機関と連携を密にし、入所児童がそれぞれの地域に戻り、秩父学園での経験を活かし、自立した生活を送ることができるよう、全力で地域生活移行に取り組んでいきたいと考えています。また、秩父学園を退園された児童一人一人が移行先で、安心して新生活を送れるよう、秩父学園としてもしっかりとアフターフォローに取り組んでいきたいと思えます。

秩父学園では、強度行動障害等で支援の難しい児童の受入れも行っております。令和六年度においては、入所児童の一層の生活環境の向上のために、現在のけやき寮を特別支援寮として改修工事を行うこととして、います。工事期間中、入所児童や関係者の皆様にご負担をおかけしないよう努めてまいります。この間の新たな児童の受入れは、時期等について調整させていただくなど、ご不便をおかけすることもありますが、ご理解いただければ幸いです。

最後に日頃からご協力いただいております保護者の皆様、関係機関等の皆様に心から感謝申

し上げます。今年度もどうかよろしくお願いいたします。

令和六年度 地域支援課体制について

地域支援課長 齋藤 信哉

令和六年度は、国立障害者リハビリテーションセンターの第三期中期目標の最終年にあたります。今年度は、地域支援課五名、地域療育支援室四名(併任四名)の職員体制で、厚生労働省の障害児入所施設の在り方に関する検討会報告書に示された四つの機能(発達支援機能・自立支援機能・社会的養護機能・地域支援機能)に沿って取り組んで参ります。

中期目標に関する主だった取り組みとしては、(一)「発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポート」として、知的障害児の事業所、保育所、幼稚園、児童養護施設等へ職員を派遣しております。

サポート内容は、①秩父学園を実習研修場所としての提供、②勉強会の講師派遣、③発達や行動が気になるお子さんへの支援の見立てや環境設定の提案、④ケース検討会への出席、⑤情報提供や支援者セミナーの実施、となります。

昨年度は、全国からのお申し込みをいただき、事業所を訪問して「支援の見立てや環境設定」についての助言や研修会等を行いました。今年度も多くの皆様にお声かけいただけましたら幸いです。

(二)「自閉スペクトラム症子育て支援セミナー」は、発達障害に関わるご家族や福祉施設職員、

教育機関等の方々を対象に開催しております。今年度も夏と冬二回、開催を予定しております。状況に合わせて対面の研修会を検討していきます。

地域との交流については、所沢市自立支援協議会こども部会、埼玉県発達障害福祉協会の各委員会、Light it up blue所沢実行委員会、所沢市就学支援委員会等に職員を派遣し、積極的に取り組んで行きます。

また、園内において、ボランティアさんや見学・研修生の受け入れ・対応や、職員研修会の実施など、外部との繋がりを大事にしながら、職員の人材育成を図る取り組みを進めて行き、地域に貢献できる事業を展開していきます。

今年度のテーマは、「俯瞰の目を養う」とし、部署だけでなく社会のニーズを敏感に察知し、広い視野を持ってアンテナを張って多くの皆様に役立てていけるような業務を行っていきたくと思えます。



令和六年度 地域療育支援室体制について

地域療育支援室長 松上 耕祐

国立障害者リハビリテーションセンターの第三期中期目標の五年目となる今年度は、四名(地域支援課含めた併任六名)の職員で業務にあたります。

地域療育支援室としては、幼児通園療育事業(たんぼぼ)、発達障害児等デイサービス事業(なかま)を中心に業務を行ってまいります。

幼児通園療育(たんぼぼ)では、保育所・幼稚園に通園する発達や行動が気になる幼児を対象に、週に一度グループ療育を実施するとともに、保育士・幼稚園教諭等を対象にした支援方法の実践研修を行う保育実践研修も行います。今年度の保育実践研修では、研修終了後に研修で学んでいた支援方法を、所属園に持ち帰ってスムーズに実践していただけるよう、研修最終日に受講者に加えて、所属園の園長や副園長、主任保育士等に来ていただき、研修の様子を見ていただくことをお勧めする文章を開催要綱やチラシに加えました。最終日に園長等に来ていただくことは、研修参加の必須条件ではありませんが、研修の趣旨をご理解いただいた上で多くの園長等にご来園いただき、今までよりも効果的な研修の実施ができればと考えています。

発達障害児等デイサービス事業(なかま)では、発達や行動が気になる児童及びそのご家族を対象とし、集団活動への適応を目指した療育支援とご家族への支援を行います。全国の放課

後等デイサービス事業所に、活動プログラム等のモデル発信することを主目的とし、今年度もホームページ等を通じて情報発信を行ってまいります。

他にも、発達や行動が気になるお子さんを支援する職員を対象とした「発達や行動が気になるお子さんを支援する支援者へのサポート」の事業を引き続き実施します。全国の事業所へ向いて、あるいはwebを利用して、発達や行動が気になるお子さんの見立てを行ったり、事業所内の研修講師を務めたりと、それぞれの場所で必要とされるサポートを提供してまいります。

今年度も地域療育支援室に通園するお子さんやご家族をはじめ、発達や行動が気になるお子さんを支援している支援機関のサポートに職員一同邁進していく所存ですので、どうぞよろしくお願いいたします。

令和六年度 地域移行推進課体制について

地域移行推進課長 伊藤 隆

令和六年度がスタートしました。今年度は、二名の職員が異動となり、四名の職員で業務にあたります。「根拠を説明できる支援をする」をモットーにご家族・保護者等の皆様には、秩父学園を利用して良かったと言ってもらえれば、皆様が必要とする支援の提供に努めて参ります。

昨年度は、十四名の方が秩父学園より巣立られました。次のステージへと移られましたが、

アフターフォローを継続しながら、お困りごとの解決等のお手伝いをさせて頂きたいと思っております。

現在在園中のこれから次のステージを目指される児童の方たちにつきましては、ご本人の成長の評価と支援の達成度合いを鑑みながら、ご家族・保護者等、関係各機関との調整、連携を行いつつ、今後をしっかりと見据えた移行支援をさせて頂きたいと思っております。

一方、入所におきまして、昨年度は、一名の児童をお迎えしました。年度を通して関東近県のみならず、各地より多くの入所相談を受けましたが、秩父学園が国立の福祉型障害児入所施設として必要とされていることを実感するとともに、各事業所、各都道府県で受入れが難しい方々におかれましてはご本人の福祉が損なわれることの無いよう留意しつつ、入所につながるなかかった場合においても秩父学園が何らかの形で協力させて頂かなくてはいけないと強く感じております。しかし、今年度につきましては、寮舎の改修工事を控えており、新規での入所は難しい状況にありますことをご承知おきくださいます。

入退所業務に限らず、各種制度利用に関する事務手続き等、地域移行推進課は多岐に渡った業務に関わっておりますが、職員一同でご家族・保護者等の皆様のご理解、ご協力を頂きながらスムーズで丁寧な対応を心がけていきたいと思っております。

ご質問、お問い合わせ等、いつでもお待ちしておりますので、お気軽にご連絡下さい。今年度もどうぞよろしくお願ひします。

令和六年度 療育支援課体制について

療育支援課 齋藤 奈津子

例年より開花が遅れたおかげで今年度は満開の桜の中でスタートしました。

令和六年度は、国立障害者リハビリテーションセンター第三期中期目標（五年間）の最終年度にあたります。これまでの取り組みをまとめ、また第四期中期目標に今後の秩父学園の方向性を反映させていくこととなります。

昨年度、十四名の児童が学園を退園し新しい生活の場へと移行されていきました。今年度は、特別支援学校中学部に二名、高等特別支援学校に六名が入学されましたが、皆それぞれ新しい環境で期待と不安が入り交じった中、少し緊張した面持ちで登校しています。生活寮の職員の異動もある中、皆さんそれぞれ新しい環境との付き合い方を模索中です。

中期目標に関する取り組みとしては

- ・ 教育と福祉の連携として、強い行動障害等で登下校や授業への出席が難しい入所児童について、関係機関等と連携を密にし、ご本人に合った登校の形や教育の機会の保障について進めていきます。

- ・ ケアニーズの高い児童の支援については、支援計画を立て有効な支援方法の構築に取り組みと共に、事例を集積し情報発信に繋げていきます。

- ・ 職員の資質向上に向け職員研修計画に沿った研修の実施や外部講師を招いての研修会の開催、外部アドバイザーを招聘したケース検討会

等を通して、組織で課題や対応について共有し、迅速に対応できるような体制を整え、職員のスキルアップを図りたいと思います。

また、これまで検討を進めてきた秩父学園の機能強化に向けた生活寮の再編について、令和七年度から特別支援寮（対象：行動上強い課題があり、アセスメントとともに個別支援が必要な児童（男女））をスタートすることとしており、今年度は男子寮一つを特別支援寮として使うため、改修工事が行われる予定です。加えて児童の地域生活移行に向けた支援体制の強化のため「トレーニングホームウイズ」での支援も充実させます。そのため、年度途中で児童や職員の見直しも予定されており、慌ただしい年になると思いますが、職員で協力して進めてまいります。

今年度は、看護師をすべての寮に配置し、入所児童の健康管理、服薬管理、衛生管理、健康増進機能の更なる向上を目指します。

昨年度、新型コロナウイルス感染症が五類に移行したことに伴い、秩父学園でも、面会、外出、行事等も以前の形にもどつつあります。入所施設の性格上、感染予防、感染対策には十分に配慮しながらも、様々な経験の機会を保障し支援を進めていきたいと考えております。



令和六年度第一回秩父学園 自閉スペクトラム症 子育て支援セミナー開催のお知らせ

自閉スペクトラム症及びその他発達障害のあるお子さんのご家族や保育士、福祉施設職員等の方々を対象に、療育の知識や支援方法を学ぶことを目的としたセミナーを年二回開催いたします。今年度第一回の子育て支援セミナーは八月三日（土）に開催します。

※詳細は秩父学園ホームページをご覧ください。
ホームページ： <http://www.rehab.go.jp/chichibu/>

令和六年度 職員配置

園長 阿久根 徹
次長 齋藤 晴美

《庶務課》

課長 時末 大揮
庶務・会計・給食係長 山本 香織
庶務・会計係 沼津 大嗣
ボイラー技師 上田 高幸

運転士 松村熊三郎
事務補助員(庶務係) 関口 桂子
事務補助員(給食係) 橋本 知恵

栄養士 島田 結実
調理師 戸村 浩
調理補助員 吉田 泉

《地域支援課》

課長 齋藤 信哉
地域支援主事 仲川 正徳

米光 恭祐
三浦 広充
金垣 明
杉崎 純子

室長 地域療育支援室 裕上 耕祐

《地域移行推進課》

課長 伊藤 隆
自立支援主事 村上 功二
児童調査主事 秋山 佳秀

《療育支援課》

課長 齋藤奈津子
療育支援主事 渡邊 浩伸
発達支援主事 久郷 英伸
心理療法士 坂寄 里紗
心理療法士 阿部 萌
作業療法士 戸川 鎮男
言語聴覚士(育児休業) 生方 歩未

西棟

寮長 かりん寮 浦野 清美

山本 文世
岡崎恵美子
山本 優子

看護師

けやき寮

櫻井 朋子
加瀬 優奈
上小路希美
太田 夏子
渡辺 愛子
箕輪 梨恵

寮長

どんぐり寮

三浦 秀真
館内 圭子
植田 萌衣
岡部 智子
石川美奈子

寮長

真壁 毅
島田由起子
津留 信久
伊藤 幸恵
星 湧人

寮長

須永 貴之
土屋 麗
松本 昂紀
勝又 祐貴
狩野 絢祐
飯田 涼大

星 美弥子
山崎 玲子
山崎さやか

看護師

清水 智恵

加賀 滉樹
親松 洋海
加藤 稜久

看護師

清水 康平
金崎 満久
木崎 聖捺
斉藤 里美

加藤 稜久

特別支援室

杉永麻菜美

星 美弥子

園生医務室

岡元 照秀

山崎 玲子

看護師・医事管理主事

佐久間裕子

大野さち子

看護師

堀越 徳浩

中田 竜太

看護師

原島二三子

金 秀行

看護師

佐山 智洋

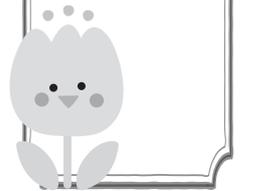
看護師

野口 修史

看護師

各寮の様子

春編



かりん寮

山本 文世

かりん寮の女の子たちは、季節のイベントに敏感です。ひとつひとつの行事を大切にしています。お正月が終わったら次に来るのは節分。職員やかりん児童みんなのかわいい鬼写真を壁に貼り、節分にまつわるゲームをしました。豆まきも、大笑いしながら職員鬼に撒いていました。そして、次にくるのは「バレンタイン」。かわいいミニバックを制作して、なかに小さいお菓子を入れました。ちょっと照れながら、他寮の男の子や、男性職員にプレゼントした児童も。ホワイトデーにお返しをもらって、大喜びする児童もいました。そして季節は冬から春へ。三月はひなまつり。かわいいランチョンマットを選んで、おいしいちらし寿司を食べました。そしてそして、雨のお花見。お弁当は寮のホールにて、みんなで食べました。雨は残念だったけれど、ホールでお弁当を食べる事も非日常で、とても楽しそうでした。その後を訪れた、満開の桜。改めて、お



散歩に行ったり、桜の近くでご飯を食べたりしました。春休みは、ゼリーを作ったり、パンを焼いたり。感動したコンサートもありました。大人の暮らしに地域生活移行した児童もいました。寂しいけれど、憧れもあります。みんなでエールを送り、見送りました。新学期、期待に胸を膨らませる児童たち。また一年、どうぞよろしくお願いいたします。

けやき寮

津留 信久

今年の冬は寒暖差が激しく風邪やインフルエンザが学園で流行りましたが、大きな混乱もなく三月にはいつも通り元気に過ごしています。新型コロナウイルスも第五類に移行した事で、外出制限も緩和され出かけられる機会が増えました。

昨年度のけやき寮からは小学生、中学生、高校生それぞれ沢山の児童が卒業されました。皆卒業証書を受け取る姿はとても頼もしく見えました。高校をご卒業された児童達の中には三月に秩父学園からも退園されました。出会いもあれば別れもあると改めて感じました。第二の人生を新しい生活場所でたくさんの人と出会い、学園で生活していた事よりも沢山楽しんで幸せに暮らしてほしいと願っています。

春休みはけやき寮の児童達は、桜を愛でながら園内を散歩したり、体育館のトランポ



リンで跳びはねて楽しんだり、グラウンドでサッカーをして児童達同士で遊んだりして毎日を過ごしています。今までは感染防止の観点から余り外出する機会がありませんでしたが、今年度は児童の皆様が楽しみにしている外出や行事を計画し、楽しい経験や思い出作りができた良いと思います。児童達と職員で明るく楽しいけやき寮にしたいと思います。



どんぶり寮

仲川 正徳・松本 昴紀

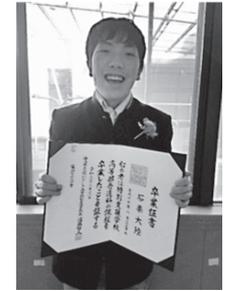
この季節は、行事がたくさんあります。節分、お花見、卒業式、入学式、新年度と。また、季節も冬から春に移り変わり、気分もソワソワ、花粉もフワフワ、天気もコロコロと変わり、中には体調を崩す児童も。特に今年は、気温の寒暖差が例年より大きかった様に思います。

さて、そんな中、二月には今年も赤鬼、青鬼がやってきました。悪い邪気を払うため、鬼に豆を投げ、豆を少しだけ食べました。

令和五年度は、中学生二名、高校生三名の卒業もありました。中学生二名は、来年度から高校生へ新しい学校への旅立ち、ちょっと不安もあるけ



れど、合格の喜びを会う人皆に伝えていた姿は新たな希望を感じました。高校生三名の児童は地域生活移行となり、新しい生活の場所へ向けて旅立ちました。地域生活移行については、施設見学や短期入所、日中生活の場を体験したことによって次のステップへと繋げることが出来ました。新しい生活も頑張つて欲しいです。



春は出会いと別れの季節となります。どんぐり寮でも職員の異動があり、五名の職員がどんぐり寮を離れ、六名の職員を新たに迎えました。新しい職員に興味を持ってくれる児童、お試し行動で職員の様子を伺う児童、我関せずと自身のペースで過ごす児童、久しぶりに寮に戻つて来た職員を見て声を出して喜ぶ児童、と職員の変化に様々な様子を見せてくれました。どんぐり寮の児童の多くは環境の変化が得意ではありません。職員は大幅に代わりましたが、今年度もどんぐり寮の児童が楽しく、穏やかな生活を送っていただけよう変わらぬ支援を提供していきたいと思えます。

二月三日に寮内で節分の豆まきをしました。鬼に扮した職員が現れると、本当の鬼だと思ひ、泣いてしまふ児童もいましたが、職員だと分かつて優しく豆を投げる児童や遠慮して投げない児童もいました。反対に手加減せずに本気で豆を投げる児童もいて、鬼は逃げていきませんでした。皆で病気や災害を追い払うことができ、元気に過ごせることと思ひます。最後は、鬼と一緒に記念写真を撮りました。夕食は恵方巻きの代わりに手巻き寿司が出たので、嬉しそうに自分たちで巻いて食べました。

二月五日に大雪が降り、久しぶりの雪遊びを楽しみました。雪上の踏み、ザクザクする音を楽しんだり、雪投げをしたり、雪だるまを作りました。雪だるまには児童が飾り付けもして楽しみました。

二月六日は入間わかき高等学校特別支援学校の入学試験がありました。くぬぎ寮からは二名が受験しました。二時間三十分という長い試験時間でしたが、最後まで落ち着いて受けることができ、見事に合格しました。

三月十四日に、所沢特別支援学校小学部と中学部の卒業式が行われました。くぬぎ寮からは、小学部一名、中学部二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。

くぬぎ寮

館内 圭子

くぬぎ寮から二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。

くぬぎ寮から二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。



くぬぎ寮から二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。

くぬぎ寮から二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。

くぬぎ寮から二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。

くぬぎ寮から二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。

くぬぎ寮から二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。

くぬぎ寮から二名が卒業されました。当日は天気にも恵まれ最高の卒業式日和となりました。年明けからほぼ毎日練習を頑張つてきました。当日はその練習の成果が出て、入場から卒業証書授与、歌の発表や退場まで、立派にこなすことができ、成長した姿を見せることができました。四月からは晴れて新一年生です。

皆が新しい生活、新しいスタートを切ります。皆さんの活躍を期待しています。

令和5年度事例報告会

三月七日に令和5年度の事例報告会を行いました。各寮、園生医務室、虐待防止マネジメント委員会より一題の計六題の事例について、日頃の支援や事業の成果をハイブリッド方式で発表しました。

今回は、国リハ・企画・情報部 発達障害情報・支援センターの石坂教育福祉連携推進官に来園いただき講評・助言をいただきました。推進官には、私達が普段行っている支援に対し、自信と誇りを持てる講評をいただきました。今後の全国へ向けた発信へ繋げる機会となった事を感じました。

今回は、国リハ・企画・情報部 発達障害情報・支援センターの石坂教育福祉連携推進官に来園いただき講評・助言をいただきました。推進官には、私達が普段行っている支援に対し、自信と誇りを持てる講評をいただきました。今後の全国へ向けた発信へ繋げる機会となった事を感じました。

令和5年度秩父学園事例報告会

所属	発表者	演題
療育支援課 かりん寮	加瀬 優奈	安心、自信、自己肯定感の構築をめざして
療育支援課 園生医務室	岡元 照秀	秩父学園における新型コロナワクチン集団接種の取り組み
虐待防止マネジメント委員会	杉永 麻菜美	医療関係のミス減らすために～医療関係インシデントの分析から～
療育支援課 くぬぎ寮	須永 貴之	個別支援計画の作成、実施、評価に関するプログラム開発の予備的研究
療育支援課 けやき寮	野口 修史	学童期に入所した児童の成長・発達の事例
療育支援課 どんぐり寮	松本 昂紀	反抗挑戦性障害のある児童に対する一支援

職員の動き

◆ 令和六年三月二十八日付

野口 佳祐 辞職（療育支援課 どんぐり寮）

◆ 令和六年三月三十一日付

鈴木 綾子 辞職（療育支援課 かりん寮）
安部 匠 任期満了（療育支援課）

◆ 令和六年四月一日付異動職員

茂木 康平（庶務課庶務係）

厚生労働省社会・援護局障害保健

福祉部障害福祉課へ

滝澤 剛敏（国立きぬ川学院教務課）

こども家庭庁支援局へ

坪井 敦憲（療育支援課 どんぐり寮）

国リハ第二自立訓練部へ

大野 晃（療育支援課 どんぐり寮）

国リハ理療教育・就労支援部へ



親松 洋海

療育支援課 けやき寮

（国リハ第二自立訓練部より）



飯田 涼大

療育支援課 どんぐり寮

（こども家庭庁支援局

障害児支援課より）



金崎 光久

療育支援課 どんぐり寮

（国立のぞみの園より）

◆ 令和六年四月一日付新規採用職員



戸川 鎮男

新規採用

療育支援課 作業療法士



太田 夏子

新規採用

療育支援課 かりん寮



加藤 稜久

新規採用

療育支援課 けやき寮



木崎 聖捺

新規採用

療育支援課 どんぐり寮

児童の動き

○二月に女兒一名が埼玉県内のグループホームに。三月に女兒一名、男児三名が埼玉県内のグループホームに。男児一名が東京都のグループホームに。男児一名が神奈川県グループホームに。男児一名が埼玉県内の障害者支援施設に。男児二名が自宅に移られました。





ひな祭り準備
お弁当前に
ランチョンマット
作り



行事予定

6月 8日 わかば祭
7月 3日 研修報告会
7月 4日 虐待防止委員会
身体拘束等適正化委員会
7月18日 プール開き



そんな中、最近発達障害のあるお子さんの保護者さんとお話をしていたのですが、以前より明るい表情で「なんだか最近色々うまくいっている」と話をしてくれたんです。この保護者さんは、お子さんが変わってほしくて昔からお一人で色々なことにチャレンジしていたのですが思ったような結果が出ず、少々疲れが見えていました。ある時、「自分だけではなく他の人た

りわからないんですね、これが。

さて、熊澤はこの「変化」というものが気になっていきます。子どもたちの歯医者では歯科に慣れてもらうためのトレーニング（プレパレーション）を行ったりするのですが突然、嫌な歯医者の治療ができるようになったりする場面に出くわすことも少なくないのですが、この「人が変わる瞬間」というのがいつなのか、さっばりわからないんですね、これが。



熊澤先生の「ゆる〜くかた〜く」

「人を変える？自分が変わる！」

国立障害者リハビリテーションセンター病院

歯科医長 熊澤 海道

どうも春の陽気に誘われてやって参りました熊澤です。

新年度が始まり、環境がガラッと変わった方もいらつしやるかと思えます。環境の変化に関しては、知的・発達障害のある方々にはひときり重要な問題だと思えます。

編集後記

秩父学園には、いろいろな種類の桜があります。種類はわからないのですが、派手な桜、艶やかな桜、可憐な桜、可愛い桜、豪華な桜。例年はそれが順番に咲くのですが、今年は、一気にみんな咲き、絢爛豪華な桜色の景色が広がりました。それも、あつという間に散ってしまい、気がつくともう鯉のぼりの飾りが。もうすぐ夏がやってきます。(仲)

ちにも協力してもらおうようにしたら気持ち楽になった」という話を保護者さんから聞いてから徐々に表情に変化が見えてきたのです。この保護者さんは自分が変わったことで気づかなかったお子さんや周りの「変化」に気づいたんだ！と熊澤も気づいた瞬間でした。

「人を変えたいなどとおこがましいぞ、熊澤。自分が変わるのだ」と自分に言い聞かせ、苦手だった大葉を食べられるようになってきた今日この頃です。

発行日 令和六年五月二十七日
発行 国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局秩父学園
住所 〒359-0004
埼玉県所沢市北原町860
TEL 04-12992-2839
FAX 04-12995-2253
chousa-chichibu@rehab.go.jp

